地球時代の選択肢

アフリカに移住した家族

吉村 峰子（南アフリカ・ダーバン在）

第 60 回

南ア理解セミナーの後で

私はかねてから、「南アフリカやアフリカ全体のことを多くの人に知ってもらうためであれば、どんどん積極的になんでもしていきたい」と思っています。

日本に住む多くの人にとって、アフリカは遠くて、暑くて、戦争と飢餓があって、発展途上国でと、メディアで部分的に切り取られたような否定的なイメージがいまだに多いのも現実です。でも、それらを、私の身の回りで起きていることをお伝えすることで、もう少し明るいイメージ変えることができたら、それはとても素敵なことです。

今回、(1 月 23 日 2022 年)の Zoom で皆様とご一緒に、南アフリカについてお話ができたことは大変嬉しいことでした。これがきっかけとなって、もっと楽しく、深く、アフリカを知っていただく機会を多く設けたいと思いました。

当日、参加されていた方々のご意見も聞けて大変有意義な時間を過ごさせていただきました。そして、セミナーの後、私が何日も考え込んだのが、ひとりの参加者がおっしゃってくださった以下の発言です。

> 私の息子のお給料は低いです。でも、地方に住んでいるので、何とか生活していけるんです。経済発展というのが当たり前のような現実ですが、そんなにどこもかしこも発達しなくてもいいのではないか？お金持ちにならなくても、その人が満ち足りて生きていくことは可能なのではないか。(吉村略)

確かに、自分の望む「シアワセ」とは、自分が自分で決めていいはずです。それでは、どうして私は何日もこのことを考えていたのでしょう。

それは、日本のような情報が溢れている社会で、あえて経済発展の満々中で波に乗る、という選択をしないことは立派な価値観であり尊重されるべきである、と思うのと同時に、私には途上国の現実が重く圧し掛かってくるからです。

セミナーの途中でお話したかどうか定かではないのですが、以前、私がインタビューした南アの中学校の校長先生がこんなことをおっしゃっていました。

> 子どもたちに将来何になりたいかを聞くと、女子は教師、看護師、居酒屋の店員、母親。男の子であれば教師、警官、農家、そして衝撃的なのが駐車場のガード。

分かりますか？彼らの職業選択肢として捉える職業は自分の前の前にいる大人たちがしていることしかないのです。そこには科学者も宇宙飛行士もパイロットもいない。これでは貧困の輪から逃れることはできない。

こういった途上国の現状を目の当たりにしているがために、南アフリカの現在経済的にそう恵まれていない若い層が、経済的な理由を超えて日本の若者たちのように、自分の生活に満足感が持てるようになるためにはどうしたらいいのだろう、と考え込んでいるのです。

個人個人の思惑を尊重することは、社会構成を考える上で大切なことで、どの国の政治家であってもこれを守るために努力して欲しいと思っています。が、その一方、圧倒的な国民層がまだ経済的に独立していない状態であったとしたら、私たちのような政治家を含む大人たちはどんな将来象を子どもたちに示していったらいいのでしょうか。

これはそう簡単には答えのない問いなのかもしれません。

さて、今回セミナーで使わせていただいた資料の最後の方にこういう問いがあります。

「子どもが就きたい職業は？」

先ほどの校長先生のお話は、いわゆるあまり経済的に豊かではない地域の例です。この同じ質問を南アのもう少し経済的に余裕のある層も、また、大人たちにも以下の質問をしてみました。

「これから目指している自分の職業は？」

日本の子どもたちが就きたい職業の圧倒的多数が会社員、公務員、といった安定した分野を答えるのに反し、多くの南ア人が老若男女を問わず思いがけない答えが返ってきました。

「ビジネスオーナー」

これは、子どもたちも、現在成人している大人、例えば教師、医師、エンジニアといった専門書に就いている人たちからも同じ答えが返ってくるのです。教師でも自分で学校を開いたり、医師であればクリニックを経営する、エンジニアだって、自分たちの裁量で仕事をしたい、と考える人間が圧倒的に多いのです。

南アフリカに限らずアフリカ全体がこれから地域として発展を遂げていく中で、やはり個人個人の「組織に属するのではなく、独立した職業人になりたい」という方向性は力強さを感じます。こういった個人が集まり、社会全体を豊かにしていこう、というエネルギーは確実に南アにはあるのです。

だからこそ、田舎にいて、自分の目の前の職業しか選択肢がない、と思い込んでいる子どもたちがそのダイナミックな動きから取り残されないようにするのはどうしたらいいのか、と延々と考え続けています。

最後に、皆さんの感想は一つ一つ読ませていただきました。日曜日にお付き合いしていただいたにも関わらず皆さんの「もっと南アフリカを知りたい」というお声に励まされました。心から感謝いたします。

[編集部より] 2022 年 1 月 23 日（日）学習交流会の講師：吉村峰子さんには早朝からご無理をお願いしました。日本は午後 2 時アフタヌーンティの時間帯でしたが、現地の南アフリカは朝 7 時。朝日に輝くお庭から「南アフリカについて」「海外から見た日本について」「平和と人権について」など縦横に語っていただき、参加者との質疑応答を含めてあっという間に 2 時間が過ぎてしまいました。

↓吉村さん提供「南アフリカと日本についてファクト シート」（講師用）

Fact Sheet　　South Africa and Japan

Fact	South Africa	Japan
人口	60,041,996 (2021)	125,708,382 人(2020)
面積	122 万平方キロメートル （日本の約 3.2 倍）	約 37 万 8000 平方 km
利用可能な土地		32.1%
言語	ズールー語 22.7%、コサ語 16%、アフリカーンス語 13.5%、英語 9.6%、北ソト語(ペディ語) 9.1%、ツワナ語 8%、ソト語 7.6%、ツォンガ語 4.5%、スワジ語 2.5%、ヴェンダ語 2.4%、南ンデベレ語 2.1%	日本語
平均寿命(人種別)	1960 年 48 歳 2020 年 66 歳	1960 年 M65　F70 2020 年 M 81　F88
結婚式･葬式の意味	結婚式・ラボラ 葬式・宗教感を超えるしきたり	
宗教	キリスト教 80%　イスラム教、ヒンドゥ教	
人気のあるスポーツ	人種別 白人系　ラグビー 黒人系　サッカー インド系　クリケット	野球、ゴルフ、
子どもたちが就きたい職業		会社員・公務員・IT 関連 パティシエ・サッカー選手・教員

↓吉村さん提供「ズールーの人たちの宗教観―お葬式について」

Zulu Religion

What happens at a Zulu funeral?

Like many cultures, the Zulu people believe that life doesn't end with death but continues in the spiritual world. Death is seen as a person's deeper connection with all creation. Every person who dies within the Zulu tribe must be buried the traditional way. If not done the traditional way, the deceased may become a wandering spirit. An animal is slaughtered as a ritual. The deceased's personal belongings is buried with them to aid them in their journey.

［編集部で Google 翻訳ソフトを使ってみました。］

多くの文化と同様に、ズールーの人々は、人生は死で終わるのではなく、精神的な世界で続くと信じています。死は全ての創造物との深いつながりと見なされます。ズールー族内で死ぬ全ての人は、伝統的な方法で埋葬されなければなりません。伝統的な方法で埋葬されなければ、故人はさまよう霊になるかもしれません。動物が生贄として虐殺されます。故人の私物は、彼らの死後の旅を助けるために彼らと一緒に埋葬されます。

、